

(19) Japan Patent Office (JP)

(11) Laid-Open Japanese Patent Application (Kokai) Number:

S61-124611

(12) Unexamined Patent Application Gazette (A)

5 (43) Publication (Kokai) Date: June 12, 1986

(51) Int. Cl.⁴ Identification code JPO file number

A41 C 1/00 7150-3B

A41 B 9/00 7149-3B

A41 D 7/00 7149-3B

10 A41 D 13/00 7149-3B

Request for examination: Not requested

Number of inventions: 1

(Total 10 pages)

(54) Title of the Invention: Method for manufacturing a garment

15 (21) Application number: S59-247595

(22) Date of filing: November 22, 1984

(72) Inventor: Hiroshi YOSHIHARA

27-10, Minamidai-3-chome,

Nakano-ku, Tokyo

20 (71) Applicant: Hiroshi YOSHIHARA

27-10, Minamidai-3-chome,

Nakano-ku, Tokyo

(74) Representative Patent attorney

Koya KONNO

25

Specification

1. Title of the invention

Method for manufacturing a garment

2. Claims

- 5 1. A method for manufacturing a garment characterized in sewing
together, in an expanded state, a core material cut from a piece of
stretchable cloth so that the material passes across positions on the
cloth which support shifting human body portions, and an outer
material constituting the outer covering of the garment, and finishing
10 then the whole in the form of the garment.

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-124611

⑬ Int. Cl.⁴

A 41 C 1/00
A 41 B 9/00
A 41 D 7/00
13/00

識別記号

庁内整理番号

7150-3B
7149-3B
7149-3B
7149-3B

⑭ 公開 昭和61年(1986)6月12日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全10頁)

⑮ 発明の名称 衣服の製造方法

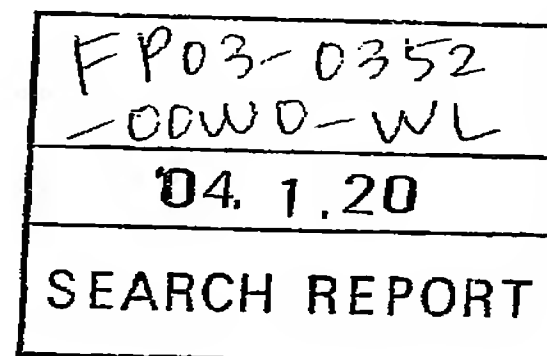
⑯ 特 願 昭59-247595

⑰ 出 願 昭59(1984)11月22日

⑱ 発 明 者 吉 原 宏 東京都中野区南台3丁目27番10号

⑲ 出 願 人 吉 原 宏 東京都中野区南台3丁目27番10号

⑳ 代 理 人 弁理士 今野 耕哉



明 細 書

1 発明の名称

衣服の製造方法

2 特許請求の範囲

伸縮性を有する一枚の布から身体の動揺部を支
承する位置を通るように裁断した芯材と、衣服の
外装を構成する表地とを展開状態で縫着し、次に
これを衣服形状となるように仕上げたことを特徴
とする衣服の製造方法。

3 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

この発明は、衣服の製造方法に関するものであ
り、特に女性用の下着、整体着、運動着、または
レジャー用衣類等で、動作性にすぐれ、肌に密着
する度合の高い衣服で、伸縮性を有する衣服の製
造に適したものである。

<従来の技術>

女性のプロポーションを矯正し、乳房や臀部の
形崩れを防止するために従来より各種の下着、整

体着が考えられてきている。代表的なものとして
はブラジャー、コルセット、ガードル、ボディ
スーツ等がある。

これらを示すものとして、例えば実開昭53-
164331号公報、同55-106604号公
報、同54-179824号公報、同56-81
913号公報、同56-98810号公報及び特
開昭56-79702号公報がある。

<発明が解決しようとする問題点>

これら従来のは、衣服設計の基準を、静止
体の体表面の分割法(立体裁断法など)に頼って
おり、動作による変動量をそこに加味しても、所
詮は静止体に立脚している。動的であることが、
基本である人体にとって、そうした方法による衣
服(特に肌に密着する度合が高い衣服ほど)が、
動作時に不合理を生ずるのは容易に想像できる。

整体着にあっては、バスト部やヒップ部に対し
て「型」を用意し、はめ込むといった方法や、伸
縮性、弾力性に富んだゴム材の利用等によって「
締め付ける」方法などが多用されている。こうし

た衣類（特に整体着）の長時間使用は、場合によっては血行不良、皮下充血、筋肉低下、体形劣化等を招きやすい。

こうした問題を解決するためには『動作に基づいた望ましい衣服形』の開発が期待される。人体の生理学的、運動生理学的な観測のもとに、その特性に見合った衣服形を探り、同時に人体と衣服の適性な係り形（係止形）を設定することである。

本出願人は、一本の伸縮性芯帯によって、人体上の相対するふたつ以上の係止点を、静止体の時のみならず、動作時にあてもなお適性に連続的に関連させて係止させ、しかも乳房、臀部、腹部などの揺動部を、簡潔に、動的に支承させる係止形（係止構造）を設定した。そして更にそれを衣服形として発展させ、女性用衣服を考案し、実用新案登録出願をした（実開昭57-5406号、同57-5407号参照）。この考案は従来の物に比べて非常に効果的であるのは確認できたが、しかし芯帯が一本で連続的に構成しなければならな

次に、この発明にかかる衣服の製造方法を第1図（イ）乃至（ニ）に基づいて説明する。この第1図は、身体の上に連続するボディースーツ、レオタード、水着等のいわゆるワンピース型を示してある。まず同図（ハ）に示すように伸縮性を有する一枚の布から芯材1を裁断する。また一方、同図（ロ）に示すように衣服の外装を構成する表地2を裁断する。そして同図（イ）に示すようにこの芯材1を表地2に展開状態で重ね、点線で示す縫合部3を伸縮糸を使用してジグザグ縫いにして縫合する。次にこれを必要箇所を伸縮可能に縫い上げて同図（ニ）に示すように衣服形状に仕上げる。

芯材1は衣服着用時に芯材1が身体の乳房、臀部、腹部等の揺動部を支承するようになるように裁断する。同図（ハ）に示す芯材1において、4は乳房を支承する箇所、5は腹部を支承押圧する箇所であり押圧の強さの度合に応じて切欠部6の大きさを調整する。7は臀部（アンダーヒップ）を支承する箇所である。8は背側のクロス箇所で

いので、実際の衣服にこのような芯帯を縫い付けるのは非常に煩雑な作業を要する。特に芯帯も表地も共に伸縮性を有するのでこれらを相互に狂いなく縫い付けるのは技術的に非常に難しい作業である。特に曲線部分では芯帯はもともと直線であるので、これを曲線状に縫い付けることには無理があるのである。しかも芯帯を均一に伸び縮みのない状態で衣服に縫い付けなければ逆効果にもなってしまう。

＜問題点を解決するための手段＞

すなわち、このような一本の連続的な芯帯を衣服に簡単にしかも伸び縮みなく縫い付けられるような工夫が必要とされるのである。

そこで、この発明にかかる衣服の製造方法は、伸縮性を有する一枚の布から身体の揺動部を支承する位置を通るように裁断した芯材と、衣服の外装を構成する表地とを展開状態で縫着し、次にこれを衣服形状となるように仕上げるようにして、芯材が伸び縮みを生じないで表地と簡単に縫合できるようにしたものである。

あり、衣服の着用時に身体にフィットさせるポイントとなるとともに、復法医学のツボの位置に合致させて配したので、着用した時に芯材1が身体に対し軽いマッサージ効果を呈する。9は左右の足の付け根部分を係止する箇所であり、足を広げたり座ったりした時の、つっぱりを無くし、開脚時に股下の表地が開脚に合わせて容易に広がるようにするために、左右の芯材を切れ目10により切り離してある。

芯材1は伸縮可能なものを使用するが、例えば東洋紡績株式会社製造の商品名「パワーネット」等を使用する。また、表地2も伸縮可能な素材を使用する。この場合芯材1が効果的に働くようにするために、表地2の伸縮度を芯材1の伸縮度より大きなものを使用する。すなわち芯材1が身体揺動部を支承する必要があるので、表地2は芯材1の働きを阻止しないようにするために、芯材1よりも自由に容易に伸縮する素材を使用するのである。従って、表地2は下着、運動着またはレジャー用衣類その他整体矯正着等の種類に応じて任

意の素材を使用できるが、芯材1よりも伸縮度の大きなものを使用する必要がある。いずれにしても、衣服の用途に応じて、芯材1及び表地2の伸縮度は任意に選択することができる。

第2図(イ)乃至(ニ)は前止め式の上着の例を示したものであり、芯材1を同図(ハ)に示すように裁断し、表地2を同図(ロ)に示すように裁断する。そしてこれを同図(ロ)のように重ね合わせ、縫合部3を点線のように縫合した後、縁をかがり、ショルダー部11を縫合し、同図(ニ)に示すように仕上げる。

第3図、第4図及び第5図はその他の実施例を示したものであるが、そのうち第3図は身体の上下に連続するボディースーツ、レオタード、水着等のいわゆるワンピース型を示し、第4図はパンツ型のものを示しており、第5図は背側のクロス箇所8を除いたバックレスタイプの例である。このかたちはフォーマルドレス等にも応用することができる。そして各図ともに、(イ)は芯材1と表地2を重ね合わせた状態を示すものであり、

ワンピース型を示したものであるが、そのうち(イ)は芯材と表地とを縫合した状態の展開図、(ロ)は表地のみの展開図、(ハ)は芯材の展開図、(ニ)は衣服の正面図、第2図は上着を示してあるが、そのうち(イ)は芯材と表地とを縫合した状態の展開図、(ロ)は表地のみの展開図、(ハ)は芯材の展開図、(ニ)は衣服の正面図、第3図は肩止め止め式のボディースーツ、レオタード、水着等のいわゆるワンピース型を示してあるが、そのうち(イ)は芯材と表地とを縫合した状態の展開図、(ロ)は衣服の正面図、第4図はパンツ型のものを示してあるが、そのうち(イ)は芯材と表地とを縫合した状態の展開図、(ロ)は衣服の正面図、第5図はバックレス型のボディースーツ、レオタード、水着等のいわゆるワンピース型を示しているであるが、そのうち(イ)は芯材と表地とを縫合した状態の展開図、(ロ)は衣服の正面図である。

- 1…芯材
- 2…表地

(ロ)はその完成図である。第3図及び第5図(イ)において、12は補助部であり、13はファスナーである。この補助部12を設けることにより乳房をより効果的に支承できるとともに、ファスナー13によりファスナー13の閉め方によりこの支承の強さを調整できる。

<発明の効果>

以上述べたように、この発明にかかる衣服の製造方法によれば、芯材を一枚の布から芯材の形状となるように連続的に切り抜くようにしこれを表地と展開状態で重ね合わせて縫合するようにしたので、芯材を表地に縫い付ける作業が簡単であり、しかも芯材をその形状に合わせて切り抜いてあるので表地に伸び縮みなしに均一に縫い合わせた状態の衣服を完成させることができるのである。

4図面の簡単な説明

図面はこの発明にかかる衣服の製造方法の実施例を示したものであり、第1図は前止め式のボディースーツ、レオタード、水着等のいわゆるワ

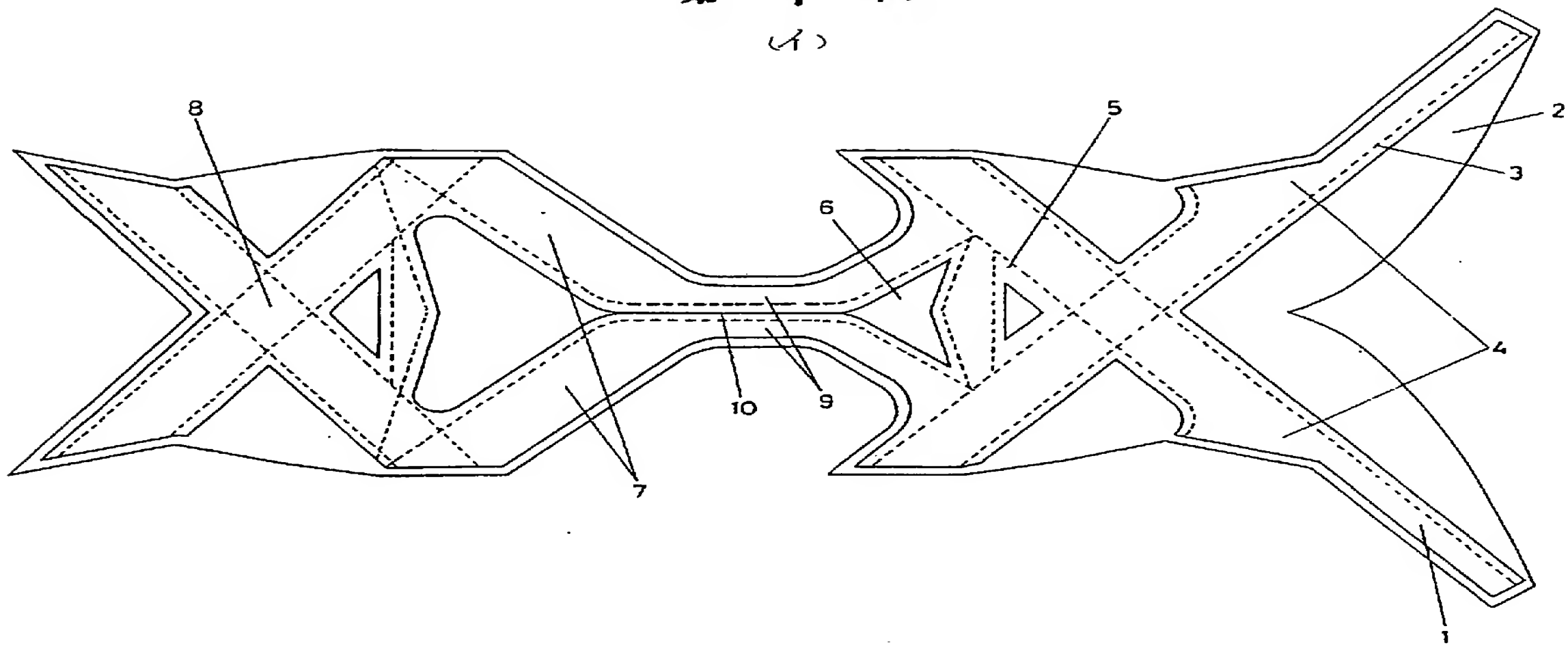
- 3…縫合部
- 4…乳房支承箇所
- 5…腹部支承箇所
- 6…切欠部
- 7…臀部支承箇所
- 8…クロス箇所
- 9…左右の足の付け根箇所
- 10…切れ目
- 11…ショルダー部
- 12…補助部
- 13…ファスナー

代理人 今 野 耕 哉



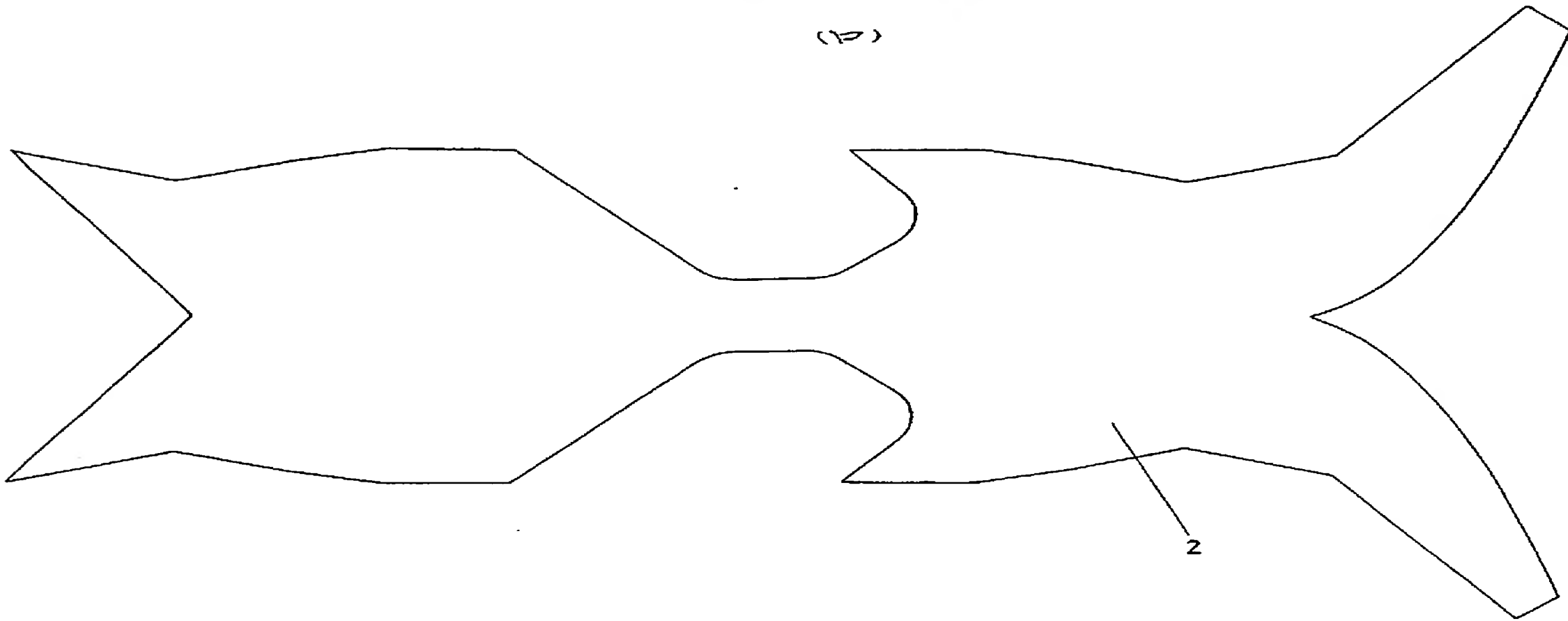
第 1 図

(イ)



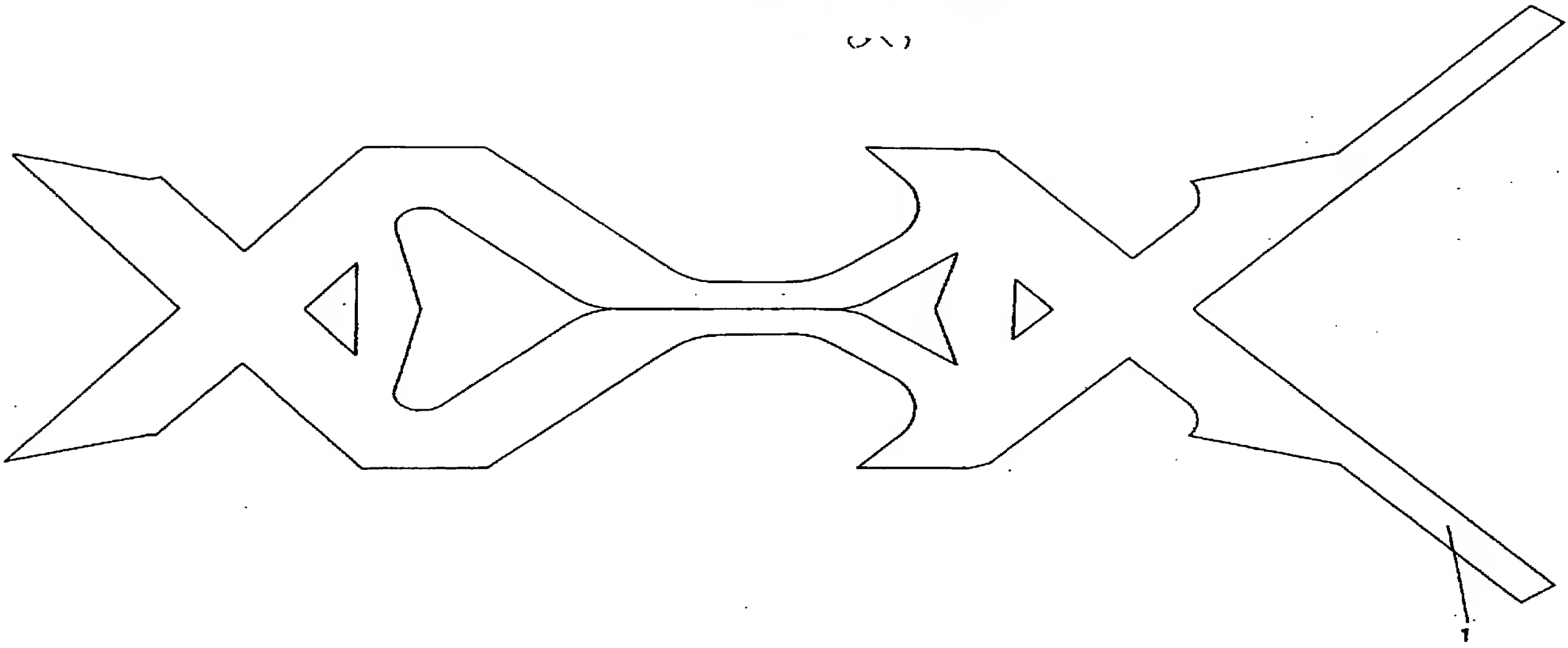
第 1 図

(ロ)



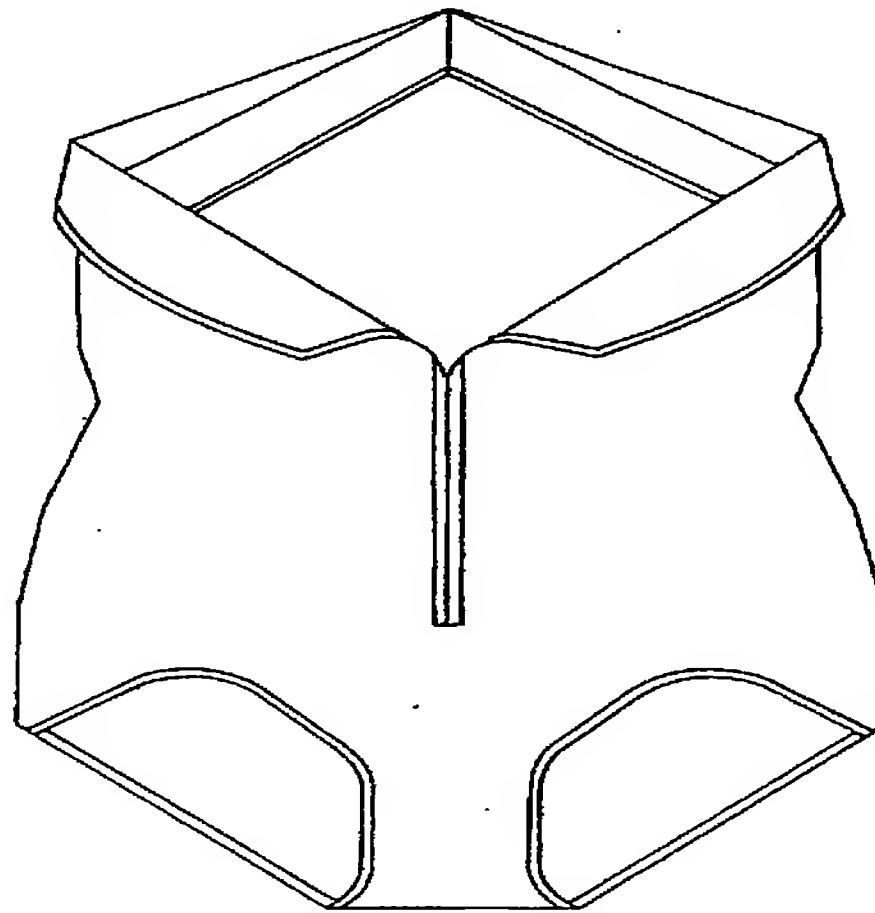
第 1 図

(一)



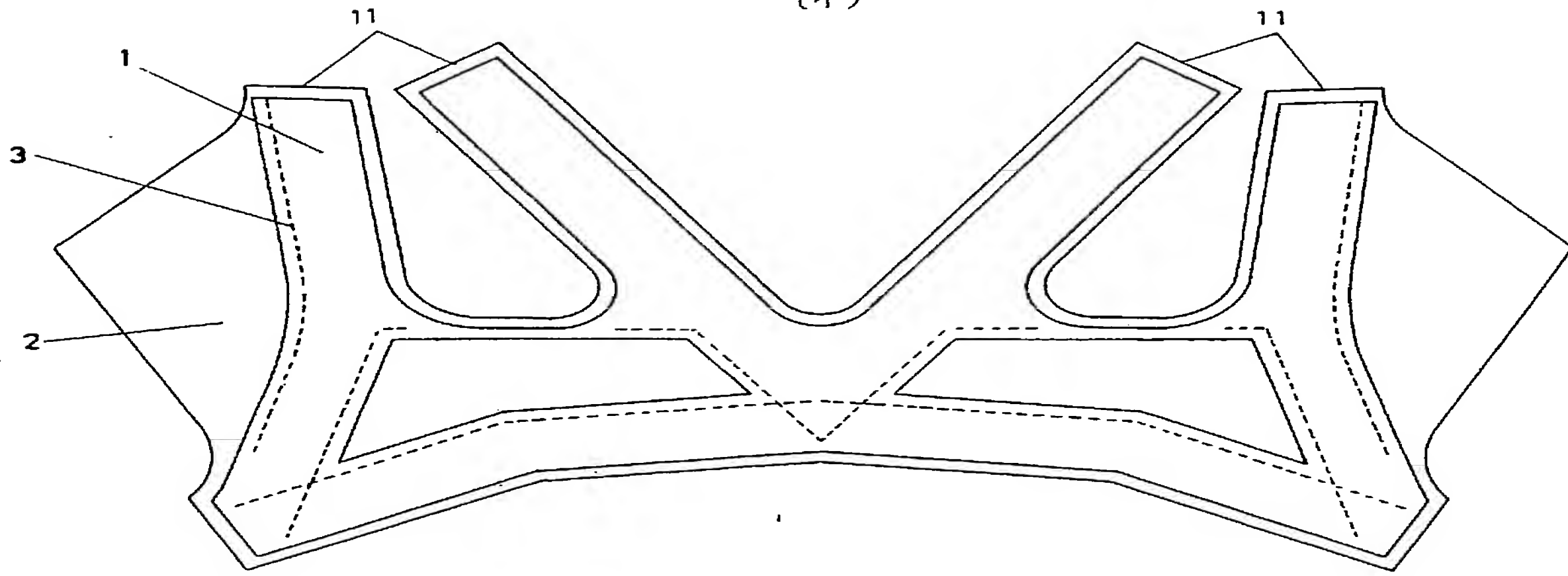
第 1 図

(二)



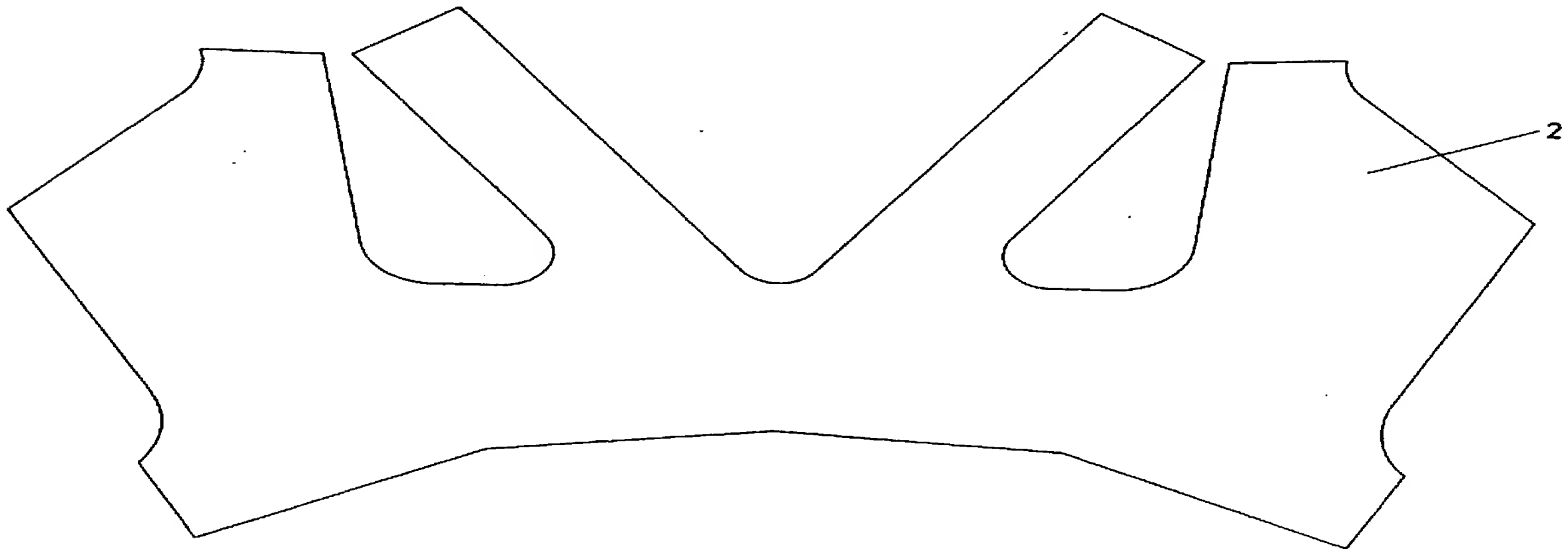
第 2 図

(イ)



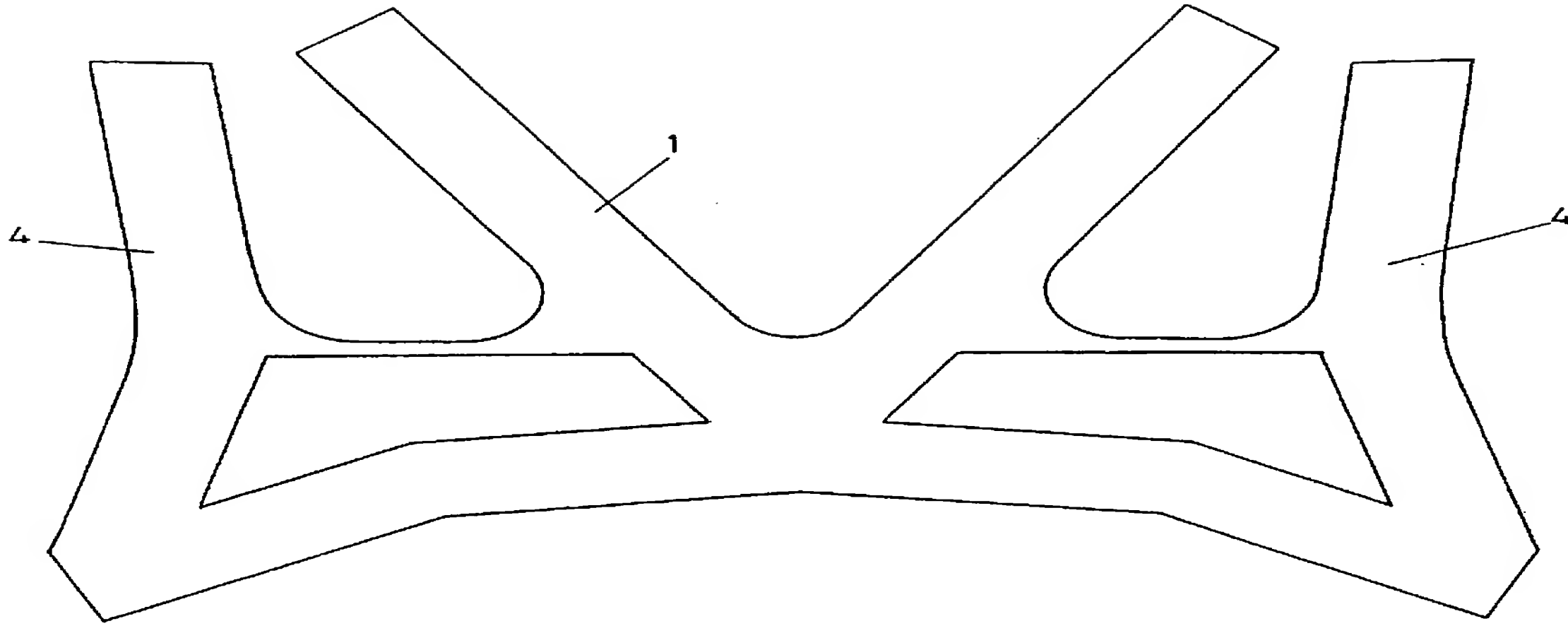
第 2 図

(ロ)



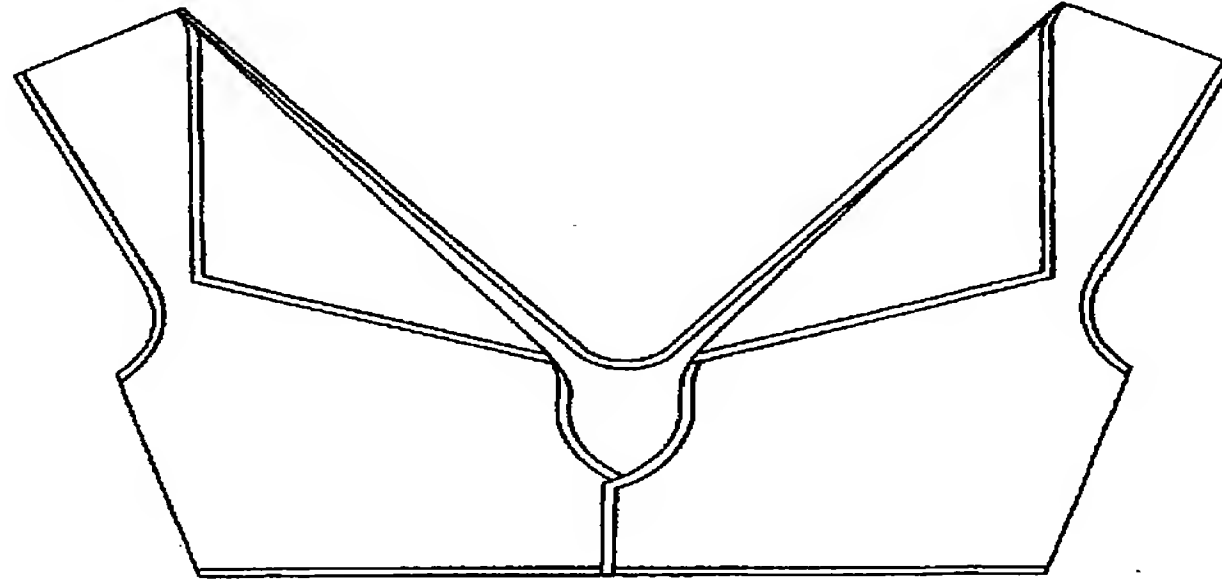
第 2 図

(ハ)



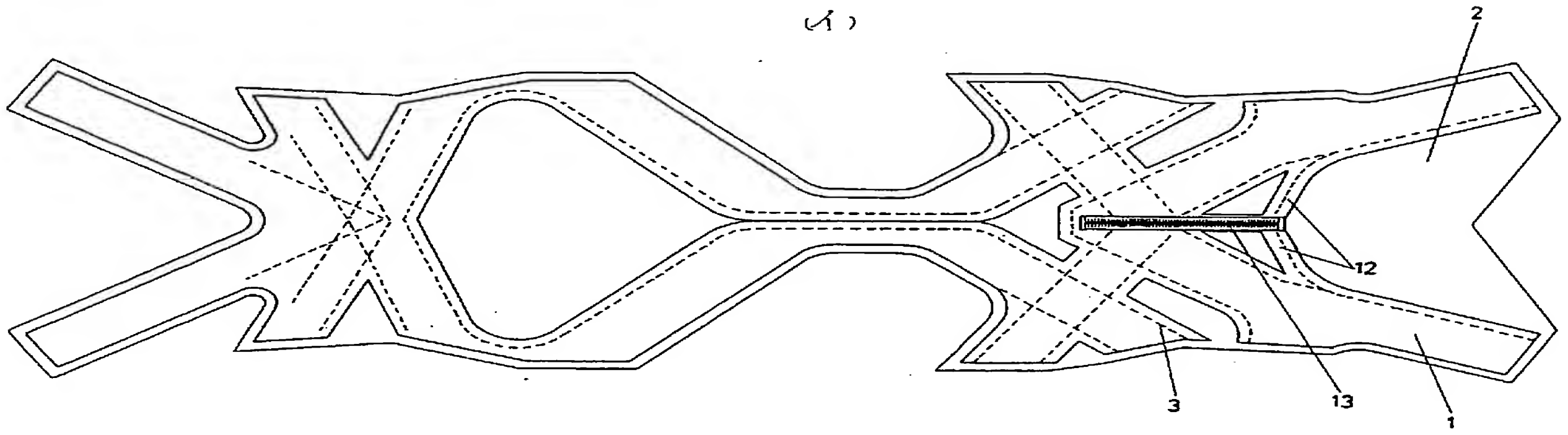
第 2 図

(ニ)



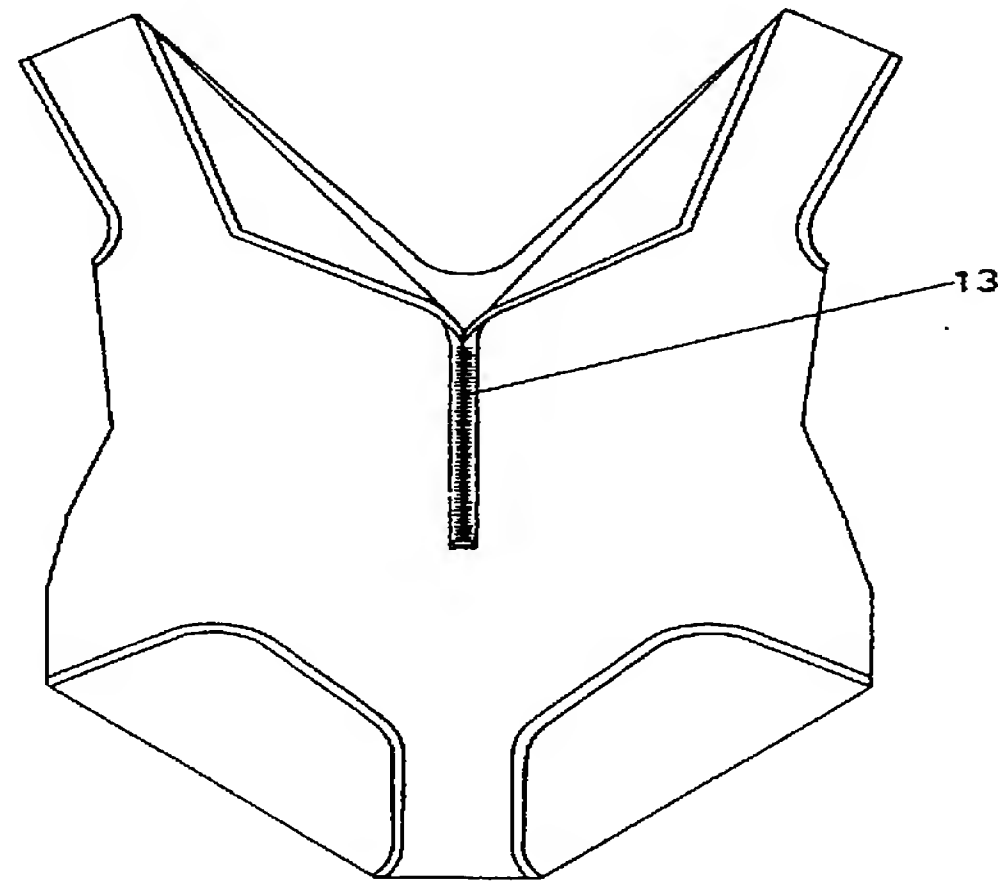
第 3 図

(イ)

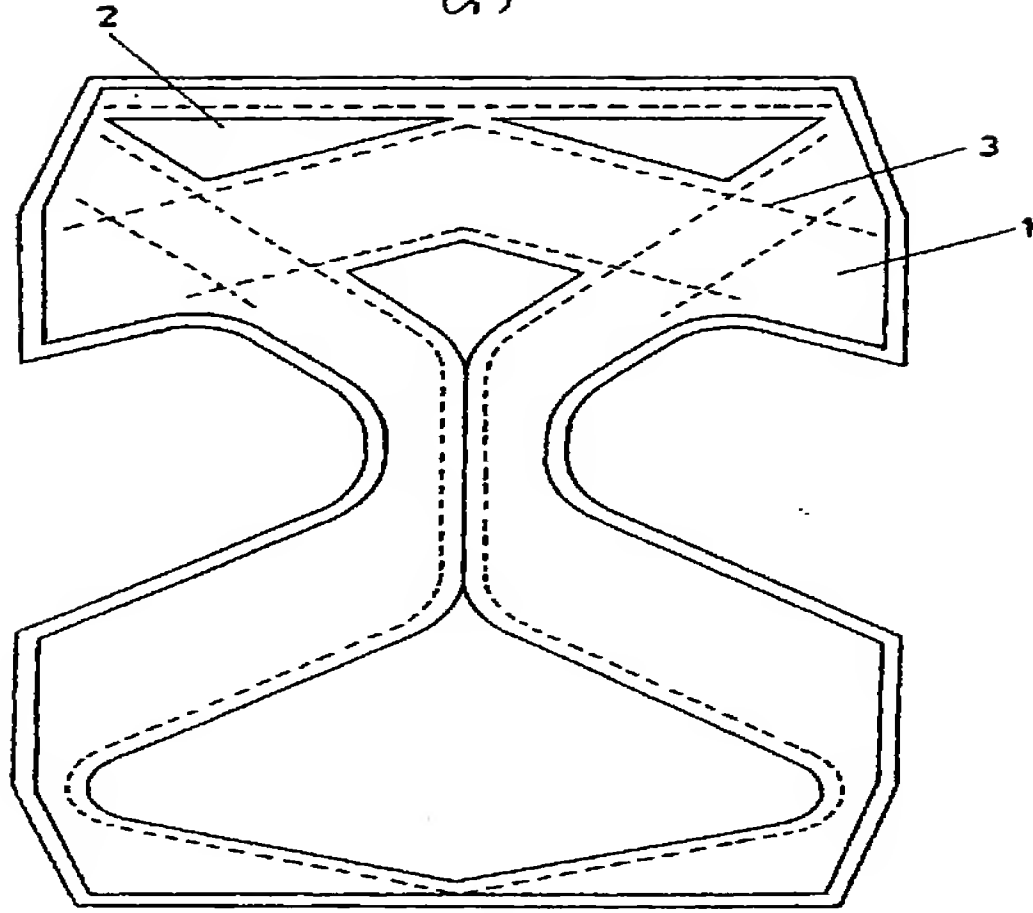


第 3 図

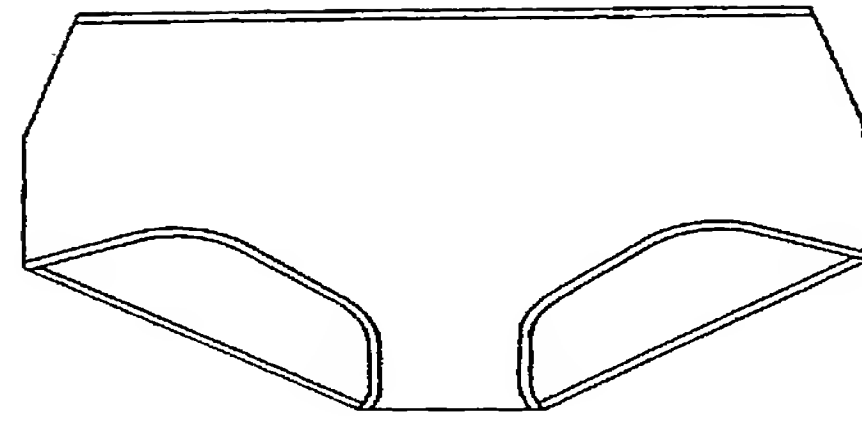
(ロ)



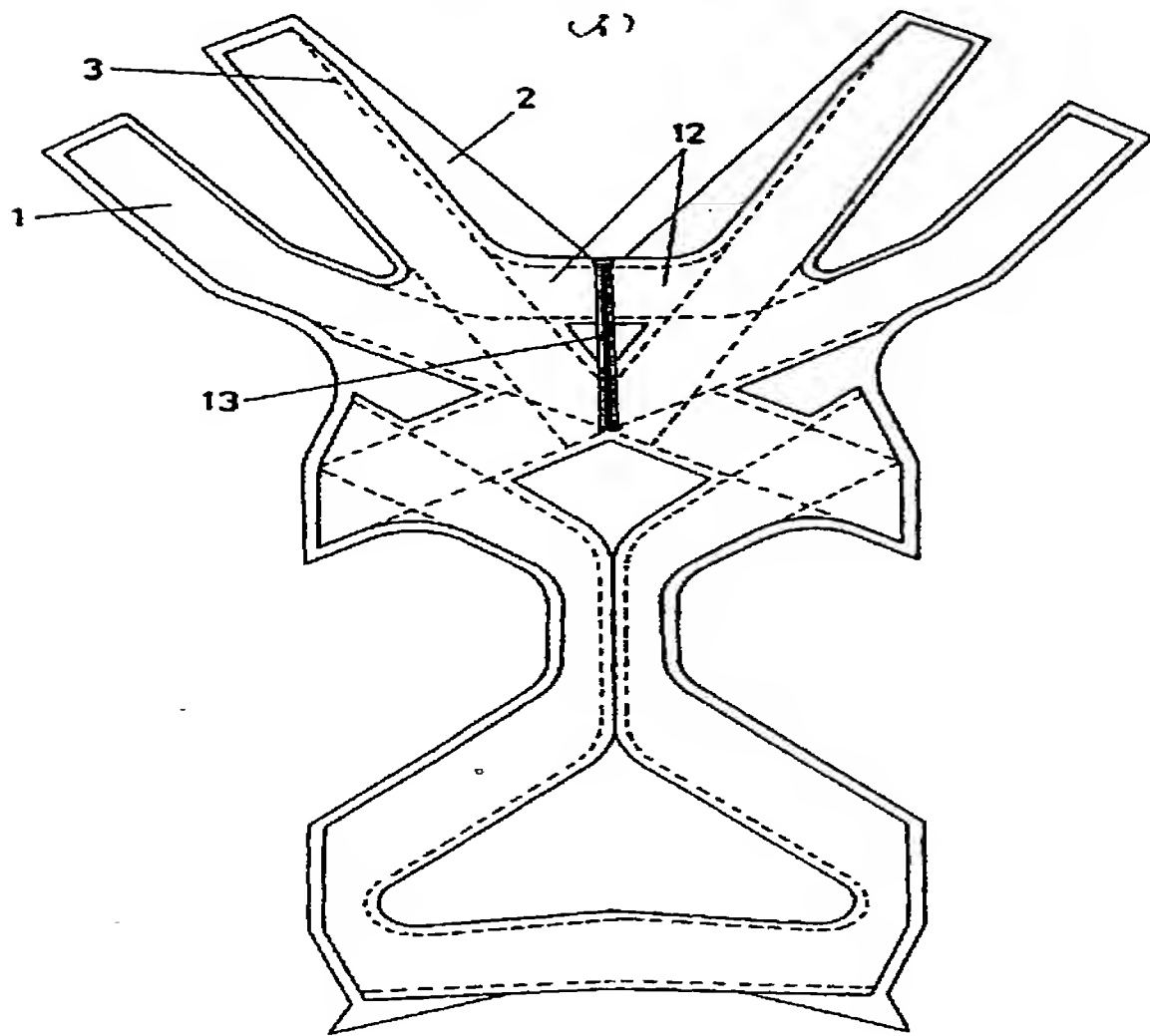
第 4 図
(A)



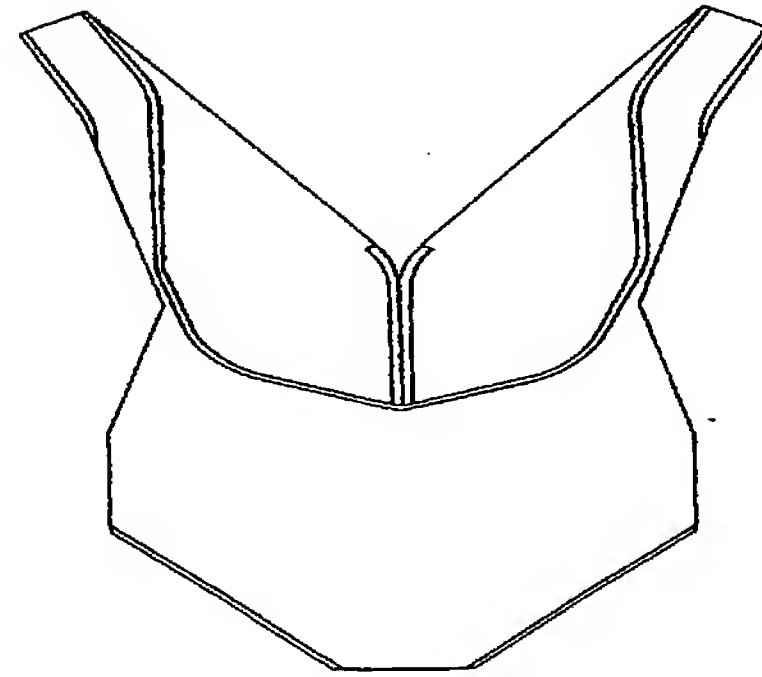
第 4 図
(B)



第 5 図
(A)



第 5 図
(B)



手続補正書(自発)

昭和59年11月26日

特許庁長官 志賀 幸 殿

1 事件の表示 *59-247595*
昭和59年11月22日出願の特許出願

2 発明の名称
衣服の製造方法

3 補正をする者

事件との関係

特許出願人

東京都中野区南台3丁目27番10号

吉 原 宏

4 代理人

東京都港区新橋1丁目15番4号

堤第一ビル4階Ⅲ03(591)0785号

(8381) 弁理士 今 野 耕 哉

5 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」及び「図面の
簡単な説明」の各欄

6 補正の内容

別紙の通り

方式
審査

小
島

補 正 書

I 明細書第3頁第12行目乃至第15行目に
「動作時に……設定した。」とあるを「動作時に
あってもなお適性に連続的に関連させて係止さ
せ、しかも乳房、臀部、腹部などの揺動部を、簡
潔に、動的に支承させ、整体効果をも備えた係止
構造を設定した。」と訂正する。

II 同書第7頁第8行目に「同図(ロ)」とある
を「同図(イ)」と訂正する。

III 同書第9頁第18行目に「(ロ)は衣服の正
面図」とあるを「(ロ)は衣服の背面図」と訂正
する。

代理人 今 野 耕 哉

